

全国の主なITSスポットサービス

1. 概要

＜3つの基本サービス＞

1) 【ダイナミックルートガイダンス】

広範囲の渋滞データを受信。カーナビが賢くルート選択。

2) 【安全運転支援】

ドライブ中のヒヤリを減らす事前の注意喚起。

3) 【ETC】

ETCのサービスも実現。

＜その他のサービス＞

4) 【インターネット接続】（一部の機種で実現）

サービスエリアなどでインターネットにアクセス。

地域観光情報の提供が可能。

＜将来のサービス＞

○このほか、決済、観光、物流などのサービスも今後展開する予定。

これらのサービスについては、官民連携による実証を推進。

2. ダイナミックルートガイダンス

- ・都市圏全体あるいは地方圏全体の（県境を越える広域な）道路交通情報がITSスポットでリアルタイムに提供され、カーナビが最速のルートを選
く選択。

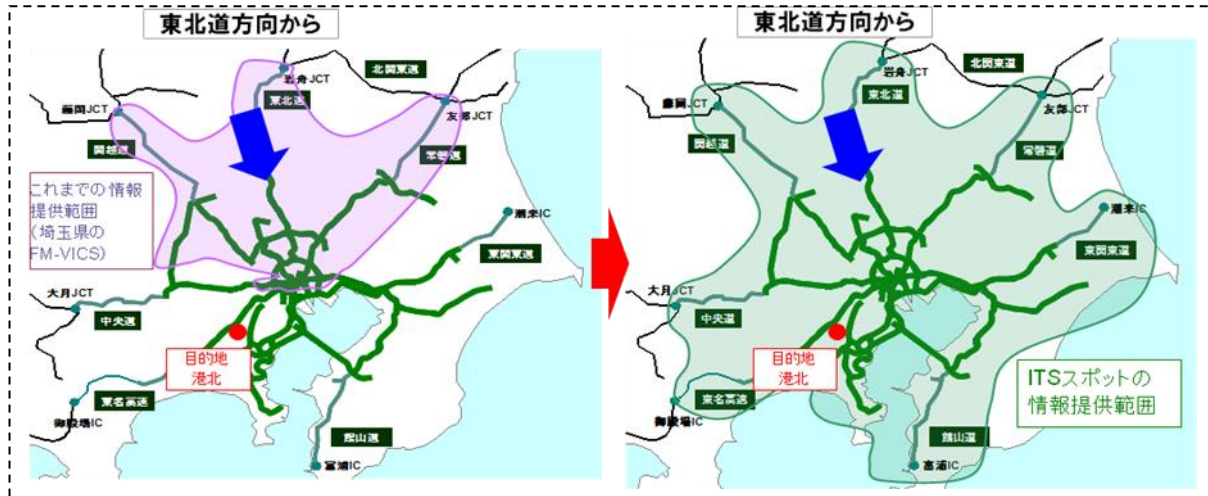
（既存のVICS対応カーナビ（FM）では、隣県の道路交通情報が提供されていない。）

例）郊外から首都圏へ入る地点のITSスポットで、首都圏の高速道路全
てのデータが入手でき、対応カーナビが最速のルートを判断
大阪圏や名古屋圏でも都市圏全体のデータを同様に入手。
地方圏においても地方圏内全体のデータを入手。

- ・このほか、わかりやすい簡易図形や音声でも情報提供
（近距離に加えて広域の情報も連続して表示される）

【首都圏の例】

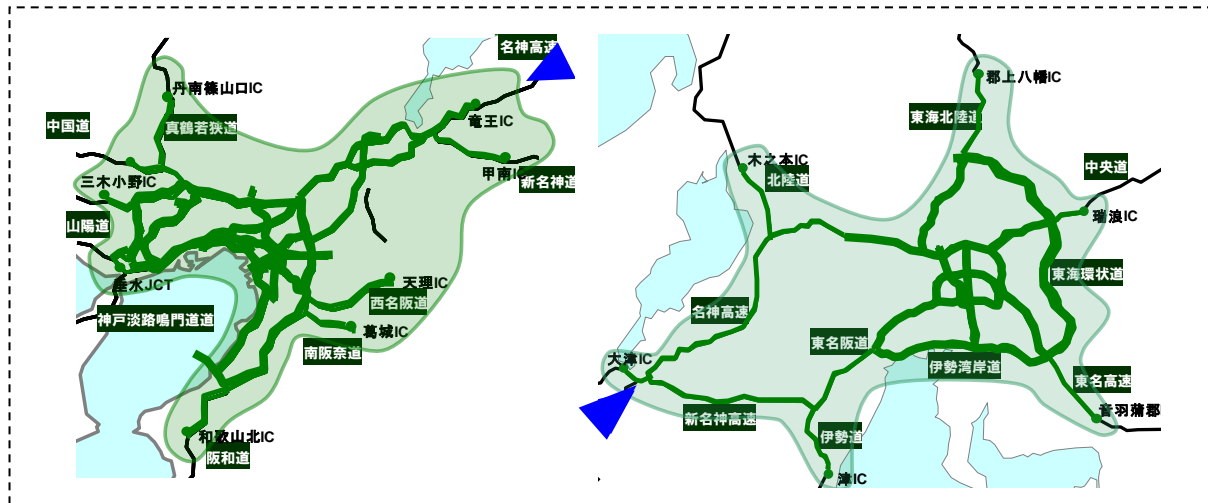
郊外から首都圏へ入る地点のITSスポットで首都圏の高速道路全てのデータが入手でき、対応カーナビが最適ルート进行判断。



ダイナミックルートガイダンスの例(首都圏)

【大阪圏、名古屋圏の例】

大阪圏や名古屋圏においても、都市圏内に入る地点では圏域の全ての高速道路のデータを提供。



ダイナミックルートガイダンスの例(大阪圏、名古屋圏)



カーナビで表示される簡易図形の例(広域)

- ・都市圏間移動の場合、経路選択が可能なジャンクション手前で、当該都市圏全体の情報に加え、目的地までの広域情報を配信。

例) 東京から名古屋までの東名高速と中央道

東京から郡山までの東北道と常磐道

名古屋から金沢までの東海北陸道と北陸道

大阪から四国までの神戸淡路鳴門道と瀬戸中央道 など



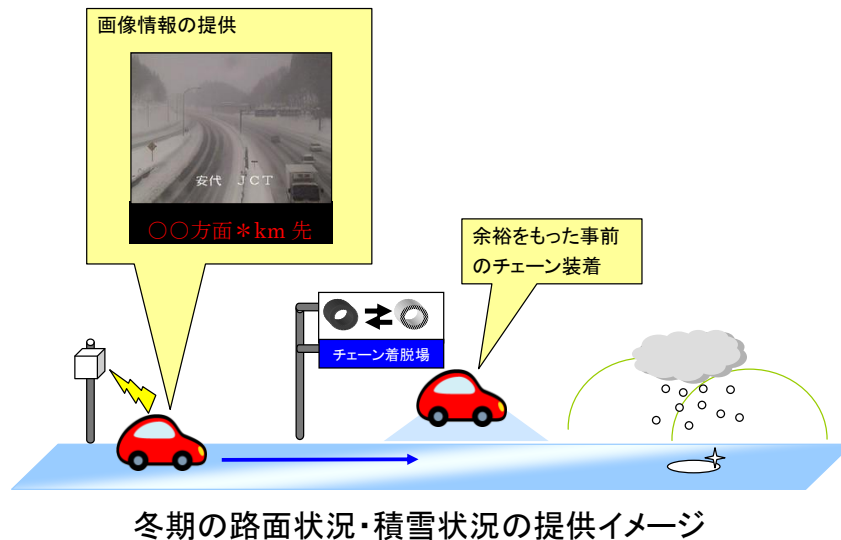
都市間移動の例(名古屋～金沢)

3. 安全運転支援

従来無かった初めてのサービスであり、通常時は広域な道路交通情報を提供するITSスポットで、各道路の交通安全上の課題に合わせて、緊急時に安全運転支援情報を提供。

1) 画像情報の提供 → 全国の高速度道路約 90 箇所を実施

- ・ 冬季の路面状況・積雪状況の画像等を、チェーン着脱場などの手前で提供することで、事前のチェーン装着やルート変更の判断がしやすくなり、より安全に運転できるようになる。
- ・ 東北地域（東北道、磐越道、山形道、山形道、秋田道等。8月サービス開始予定）で 33 箇所等、全国の 78 箇所を実施。
- ・ このほか、越波危険箇所（東名由比付近 3 箇所）、トンネル内等危険箇所（東京港トンネル、大阪港線阿波座等 8 箇所）でも実施。



2) 障害物の手前での情報提供 → 全国の高速度道路で実施

- ・ 交通管制センターで収集した落下物などの障害物の情報をITSスポットで提供し、障害物の手前で対応カーナビが自動的に情報を表示。
- ※例えば、首都高速道路では落下物などの障害が年間約 5 万件発生（10分に1件） 【カーナビでの表示例】



3) 事故多発地点での注意喚起 → 全国の高速道路約 150 箇所を実施

- ・カーブ先やトンネル先の見えないところで急に渋滞に出くわす箇所など交通事故多発地点において、事前に注意喚起。

※首都高速道路の事故多発ワースト 1 箇所である参宮橋カーブでは、カーブ先の渋滞情報提供により追突事故などを 6 割削減。



4. ETC

ITSスポットは、ETCと同じ通信技術を活用しており、対応カーナビを用いることで従来のETCのサービスも受けることができる。

5. その他のサービス

一部機種により、サービスエリアや道の駅などにおいてカーナビからインターネットにアクセス

(東名・名神の全てのサービスエリア等、全国 53 箇所を実施。)



サービスエリア等での情報提供画面例

※一部機種により対応